

令和3年度事業・活動報告

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 旭川 NPO サポートセンター

【事業の成果】

昨年に続き、今年度も新型コロナ感染拡大の影響で旭川 NPO サポートセンターが指定管理をしている、旭川市市民活動交流センターCoCoDe も休館を余儀なくされました。休館および蔓延防止措置により、様々な団体の活動も自粛気味となり CoCoDe の利用も激減しました。

ただそのような中でも、感染対策をしながら、市民・NPO に必要と考える事業は実施することができました。

また、サポートセンターとして、これまでの活動の果実を社会へ還元したいと考え、New Project チームを立ち上げ、新たな事業に取り組む準備を始めました。

オンラインでの会議や講座も普及し、新たなスタイルでの活動に転換を進めなければならない状況になってきており、そうした対応ができるように体制を整えてきました。

■事業名 (旭川市指定管理事業)

旭川市市民活動交流センター指定管理業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

【目的】

旭川市市民活動交流センターCoCoDe に関して、

- 1) 施設の使用承認／管理運営／維持管理
- 2) 市民活動団体の登録
- 3) 市民活動に関する情報収集・提供／相談・コーディネート／学習機会の提供／交流及び協働の促進
- 4) その他自主事業等



青空マルシェ&子ども縁日

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【事業内容・事業成果・課題等】

1)施設の使用承認／管理運営／維持管理について

① 利用件数 **2,426** 件、利用者数 **24,986** 名、利用料金 **5,764,913** 円。

(前年度 利用件数 **2,613** 件、利用者数 **21,886** 名、利用料金 **5,114,712** 円)。

② コロナキャンセル件数 **868** 件、キャンセル分利用料金 **2,959,924** 円

(前年度 コロナキャンセル件数 **591** 件、キャンセル分利用料金 **3,735,940** 円)

※参考まで今年度の減収補償は **3,009,053** 円 (前年度 **4,153,798** 円)

③ 施設清掃業務、施設敷地内管理業務、点検等その他業務について所定通り実施。

2) 市民活動団体の登録について

- ① 市民活動情報サイト登録 **233** 件 (前年度 226 件)
- ② 市民活動交流センター登録 (団体) **374** 件 (前年度 359 件)
- ③ 市民活動交流センター登録 (個人) **0** 件 (前年度 0 件)

3) 市民活動に関する情報収集・提供

- ① CoCoDe 通信の発行～毎月 800～900 部
- ② 利用者懇談会 5/14、11/18 実施 参加
前期と後期に分けて実施。前半期の実績報告と次半期の計画報告を行った。また、現在 CoCoDe が抱えている課題について利用者意見を伺った。
- ③ 「中小企業デジタル化応援隊事業」説明会 7/16 実施 参加 2 名
北海道 NPO サポートセンター主催で、中小企業向けの IT の活用や相談に関して専門家に相談をする際の謝金・旅費に対して補助金を受けられる国の事業についての説明会。
- ④ CoCoDe トークサロン 7/29, 10/7, 11/15, 2/16 実施 参加 23 名
毎月行っていたトークサロンも、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、7 月、10 月、11 月、2 月の 4 回となった (前年度は 1 回)。テーマはそれぞれ「キリギスってどんな国?～中央アジア・キルギス共和国を知ろう～」、「ストレスフルな現代と上手に付き合う心身の作り方～ヨーガの智慧 (ちえ) ～」、「旭川に移住して「公園ゲストハウスをつくったワケ」、「柔道で学んだこと」。

4) 相談・コーディネート

- ① 日常の相談・コーディネート～NPO 設立運営相談等。
相談総数 93 件。(内訳：個人 22 件、市民活動団体 56 件、企業 15 件)。(前年度 139 件)

5) 学習機会の提供について

- ① 防災に関する意見交換会～三者連携を考える～ 10/29 実施 参加 28 名
「市民と NPO のための公開セミナー」第 1 弾。最近、内閣府が推奨している行政と災害 VC と NPO による三者連携について意見交換を行った。来場者 28 名の他、オンライン参加が 8 名等、市内外から多数の参加者があり、活発な意見交換会となった。
- ② 防災教育を考える 10/29 実施 参加 24 名
ひがし北海道市民防災サポート代表の辻川実氏をお迎えし、市民活動団体の Web 会議初心者に向けて、定番ツールである zoom の使用方法や、トラブルの対処法などを学びました。模擬 Web 会議が好評でした。
- ③ 非営利団体の事業承継 10/30 実施 参加 24 名
「市民と NPO のための公開セミナー」第 3 弾。テーマに関してまず角一典様より話題提供があり、その後、団体を発展的に解消させた元ねおす代表の高木晴光様、また小規模福祉事業所が集まって株式会社を発足させようとしている北見 NPO サポートセンターの谷井貞夫様より発表があった。3 者とも人材育成に触れられ、その重要性を再認識した。同時に地力も必要であるというのが印象的であった。来場 24 名、オンライン参加 6 名。
- ④ NPO 会計セミナー 3/12 実施 参加 10 名
インボイス制度と電子帳簿保存法について、税理士の佐藤はるみ先生にお話を伺った。今回は、ZOOM とのハイブリット講座で行った。

6) 交流および協働の促進について

- ① 北彩都ごみゼロ大作戦 4/24 参加 7 名

昨年度はコロナ感染拡大防止を目的として中止された北彩都ごみゼロ大作戦は、今年度はコロナ感染に留意しながら、規模を縮小して実施することとなった。CoCoDe 職員とCoCoDe の利用者で約1時間、周辺の清掃を行った。事業を通して参加された利用者との交流が促進された。

② 青空マルシェ&子ども縁日 7/31 実施 参加 680 名

毎年5月のこどもの日に開く「キッズワールド」の代替イベントで、ヨーヨーつりやおもちやくじなどの子ども縁日を開催。また毎年開催している青空マルシェも同時に開催し、新鮮野菜や加工食品、手作り雑貨の販売を実施した。当日は親子連れの姿が多く、夏休み等に入った子どもたちにとっても楽しいイベントになったと思われる。

③ クリスマスキャンドルナイト 12/11 実施 参加 70 名

例年行われているクリスマスイベント。ハープ演奏とジャズ演奏の2組のコンサートを実施。入場制限を設けての開催となった。

自主事業等について

特になし

■事業名 (旭川市及び周辺7町委託事業)

ファミリーサポートセンター

・上川中部こども緊急サポートネットワーク事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

旭川市より受託したファミリーサポートセンター「育児型」は子育ての援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員になり、お互いに地域の中で助け合いながら子育てをする会員制の相互援助活動を行う。また1市8町(本年度から美瑛町が加入)から受託した「上川中部こども緊急さぼねっと」は宿泊を含め、病児・病後児の預かり、臨時的・突発的なニーズに予め登録している地域の人子どもを預かる事業で、子どもを預かって欲しい人との橋渡しを行うことにより、地域の子育て支援・児童の福祉の向上を図ることを目的としている。



子育て支援者養成講座

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

◎ファミリーサポートセンター「育児型」

1) 会員の募集、登録業務

2) ハローワーク、保育所、学童保育施設等に周知広報

新型コロナウイルス感染予防のため、周知広報は縮小され母子保健課乳幼児4か月健診時の対面事業説明は令和2年から2年間禁止となっている。

3) 子育て支援者養成講座実施（「上川中部子ども緊急さぼねっと」との合同養成講座）

前期子育て支援者養成講座は新型コロナウイルス感染拡大予防のため緊急事態宣言発令のため開催中止

後期子育て支援者養成講座開催

日 程： 10月8日.12日.13日.18日.19日.21日

講座数： 13講座、25時間

参加者： 23名

4) 依頼会員と提供会員の事前打ち合わせの調整

5) 依頼時の相互援助の連絡調整

6) 会員の交流・情報交換・意見交流会実施（上川中部子ども緊急さぼねっと合同研修）

① 合同研修会（上川中部子ども緊急さぼねっと及び旭川市産前産後ヘルパー事業従事者合同研修）」

日 時： 令和3年10月6日（水）

場 所： 旭川市神楽公民館2階調理室

講 師： 管理栄養士 柴山 祐子氏（元旭川大学短期大学部教授）

内 容： 簡単にできる離乳食

参加者： 16名

① 合同研修会と交流会

日 時： 令和4年3月30日（水） 9:30~12:30

場 所： 旭川市市民活動交流センター1階ホール

内 容： 「ファミリーサポートセンター事業意見交換会」

旭川市子ども総合相談センター事業担当 湯浅氏参加

「ボッチャ体験会」

講 師： カムイ大雪バリアフリー研究所の3名

参加者： 22名

7) 関係機関等との情報交換、連携を図るための会議

8) サブリーダーの情報交換を行うサブリーダー会議実施

9) 提供会員のレベルアップ講習会中止（「上川中部こども緊急さぼねっと」合同研修会併用）

10) 月毎に市へ報告及び助成請求

11) 年1回通信「育輪」発行

【事業成果・課題】

1) 会員数 依頼会員 1,458名

提供会員 210名

両方会員 44名

総会員数 1,712名

2) 依頼総件数 1,773件（キャンセル 224件）

援助総件数 1,549件（R2年度 2,857件）

① 保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り 366件 ⑦ 子供の習い事等の場合の援助 334件

② 保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり 298件 ⑧ 保育所・学校等の休み時の援助 24件

③ 学童の登校前の預かり及び送り 142件 ⑨ 冠婚葬祭や他の子どもの学校行事

母子家庭及び父子家庭の生活の安定を図ることを目的としている。

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【事業内容】

- 1) 依頼時の利用者と家庭生活支援員の生活援助及び子育て支援の連絡調整実施
- 2) 関係機関との情報交換、連携を図るための会議実施
- 3) 月毎に市へ報告及び利用料の申請実施
- 4) 家庭生活支援員資格者の手続き実施

【事業成果・課題】

① 利用者数

利用会員登録	32名
家庭生活支援員	12名
子育て支援員	37名

② 利用状況 337件 (前年度 159件)

生活支援	197件	(前年度 92件)
子育て支援	140件	(前年度 67件)

前年度の2倍以上の利用があった。何かしらの疾患を抱えている方が多く、住居の清掃や食事の準備もできず生活環境が劣悪な状態となっており、生活支援や子育て支援を行っている。

また、この事業は緊急性を要する案件について支援に入って欲しいとの指導もあり、数年継続して生活支援に入っていたが、家族の協力で生活環境が整えることができるということで終了した世帯もあった。

■事業名 (旭川市委託事業)

子育て交流活動推進事業実施業務

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

子育ては親だけでなく、地域社会全体の支えが大切ということから、子育てに関する、様々な関係機関や団体などが連携して、保育所や、幼稚園に通っていない児童を家庭において養育している全ての保護者がいつでも子育てについて相談でき、また、保護者同士や子育て経験者等と交流できる環境づくりを行う。

旭川市内には子育て中の親が自主的に活動する育児サークルや、地域住民で子育てを支援する子育てサロンがあり、それらの団体に対して活動の際の会場費の補助を行う。また子育て支援を望む団体・個人が人材バンクに登録し、育児サークルや子育てサロンに託児や、特技等でサポートを行う際のコーディネートを行い子育て環境の充実に寄与する。

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

新型コロナウイルス感染拡大予防のためほとんどの事業が中止になった。

1) 登録している育児サークルに対する支援を地域子育て支援センターと連携して行う。

会場費補助 118 件、 22,080 円

2) 育児サークル合同イベント（わんぱくフェスティバル）中止。

3) 育児サークルへの支援員の派遣

支援員派遣数 13 件 支援員派遣者数 32 名

4) 育児サークル事業説明会中止

5) 子育てサロンへの支援

会場費補助 23 件、 46,750 円

支援員派遣数 0 件、 支援員派遣者数 0 名

① 子育てサロン意見交換会

日 時：11 月 1 日（月）10:00～11:30

会 場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

議 題：現在の開催状況と1年前との変化

旭川あゆみ幼稚園子育て支援センターぴよんぴよん 金野朋恵先生による

「0～1 歳児と保護者が楽しめるふれあい遊びとおすすめの曲紹介」

参加者：12 名 先生：4 名 子ども総合相談センター：2 名 サポセン：2 名

7) その他の支援

子育て支援センター、児童センター、留守家庭児童会、市立保育所、保健所等

支援員派遣数 25 件、 支援員派遣者数 53 件

8) 子育て人材バンクの登録 79 名

9) 育児サークル・子育てサロンの支援に関するニーズ調査及び分析

育児サークルは母親の就労で保育園入所や満3歳で幼稚園入園可能なこともあり、特に本年度は会員数が減ることにより維持ができずに解散に至ったサークルが数件あった。子育て中の親御さんにとって、現にある育児サークルが魅力あるものとなる様、子育て支援センターの先生方の協力を得ながら継続的な支援をしていく必要がある。

子育てサロンもサークル同様、参加者も少なくなり、運営費不足、後継者不足等の現状も踏まえた上で、より一層旭川市から補助を得られるよう支援を押し量りながら継続につなげていきたいと思っていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催が例年の1/4と激減、主催者側は非常に残念な想いの年となった。

■事業名 (社団法人北海道医師会)

北海道に在住する医師を対象とした緊急時保育支援事業

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



【目的】

子育て中の医師の仕事と家庭を両立させるためのサポートで、利用者が緊急に支援を必要とするとき、北海道医師会が利用者に代わって旭川 NPO サポートセンターに依頼するもので、女性医師等

の働く環境を整えることによりキャリアの継続に寄与することを目的とする。

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【事業内容・事業成果】

1) 事業内容は上川中部こども緊急さぼねつとに準ずる。

登録医師	16名
利用件数	166件
利用時間	194.5時間

登録にあたっては、ファミリーサポートセンターの登録時に情報提供し、入会登録を促す。旭川市に於いてはファミリーサポートセンター事業が充実しており、また助成制度もあるために北海道医師会からの利用券を使用せずとも女性医師等にとってはキャリア継続できる環境が整えられつつある。その他研修等の集団託児も実施している。

■事業名 産前・産後ケア

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター



【目的】

赤ちゃんとの対面で喜び、楽しいはずの出産が、出産後に情緒不安定、不眠、不安、ふさぎ込む、注意散漫、イライラ等、産後うつになっていく母親が少なからずいる。核家族化が進み、希薄な人間関係の中、母親自身の経験不足などで出産・育児が辛いものになってきている。育児支援を実施している中で、産前産後、不安でいっぱい母親へ寄り添う支援の必要性を感じてきた。子育て経験者である支援者だからできるお手伝いによって、そうした母親への自信回復の一助となることを目的とする。

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

妊娠・出産により精神的に不安定になりやすい時期の家事をサポートする事業。掃除・洗濯・買い物・調理の下準備等を緊急さぼねつとの登録スタッフの中から、産前産後ケア事業に登録した方が訪問している。

スタッフ	17名
依頼件数	17件
時間数	29時間

転勤族の方や、親がいても仕事をしているなど昔のように頼れる人も少なく、スタッフは感謝されている。また、里帰り出産時の依頼も受け入れている。

また、「上川中部こども緊急さぼねつと」事業での係わりから、旭川市内在住で1歳過ぎても利用希望者や鷹栖町在住の利用希望者町からの利用もあった。

母親へサポートメニューが増えることにより、より安心安全に子育てができる「子育てに優しい街」になって行くことでしょう。

■事業名 (旭川市委託事業)

旭川市産前・産後ヘルパー事業

■NPO 法人旭川NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



【目的】

ヘルパー事業は妊娠中及び出産後、母親の体調不良等のため、家事や育児の援助を必要とする家庭にヘルパーが支援を実施することにより、子育て家庭の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的とする。

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

1) 旭川市産前・産後ヘルパー事業従事者向け事業説明会及び研修会

日 時：令和3年11月11日(木) 9:30～12:30

会 場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

講 話：助産院あゆる院長 北田 恵美氏

産前産後のお母さんの心と体の変化

不安定な心のお母さんとのコミュニケーションの持ち方

最近の子育て事情など

実 習：沐浴

参加者：14名

2) 利用の申込みを受け、事業説明

3) 初回時面談(聞き取り)

4) サービス実施、自己負担額の徴収(500円)

5) 月毎に実施報告及び委託料請求

【事業成果・課題】

1回の出産につき20回(多児の場合40回)家事や育児に関するもので利用が可能である。

希望する事業所に申込みをして家事や育児の支援をしてもらう仕組みである。

利用料金：1回(2時間以内) 500円

利用人数：162名 利用延べ回数：381回

妊娠中及び出産後、母親は体調不良等から身体的・精神的に不安定になりやすい。当初周知広報の遅れもあり、利用人数が少ないと感じていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防中、自宅に人を招くことを躊躇するところもあったが、受け入れてもらったところでは母親に寄り添った支援をするので、もう少し早くから利用すると良かったとの声を聞くとヘルパー従事者は感激していた。

毎年1,800人前後の新生児が誕生しているので、行政に年間利用件数を問い合わせたがまだ連絡はない。もっと気軽に利用してもらいたいので周知活動に力を入れたい。

■事業名 こども食堂開設

■11月～3月(赤い羽根共同募金助成)

■NPO 法人旭川 NPO サポートセンター

3 すべての人に
健康と福祉を



コロナ禍で、学校が休校になったり、休み中でも外出自粛のため、なかなか外に出掛けられない親子のため「食と学びで子どもを支える子ども食堂」を開設しました。コロナ感染防止のため休館・蔓延防止期間中はお弁当のお持ち帰りにして、リスク軽減を図りました。

【事業期間】

令和3年4月～令和4年3月



【事業内容】

実施回数：4月24日、7月10日、7月24日、8月14日、9月4日、10月9日、11月3日
12月11日、1月10日、2月6日 3月19日計11回

実施時間：11：00～13：00

参加者数：延 225名

会 場：旭川市市民活動交流センターCoCoDe

【成果】

感染リスクを抑えるために、予約制にしたり休館中は駐車場で配布するなど工夫をしながらの開催でした。市民や企業の方たちからの食材等の寄付もあり、多くの親子に喜んでもらえました。高校生や市民ボランティアにより学習支援や遊びなども一緒にすることができ、子どもにとってはお兄さんやお姉さんと過ごすことができる良い機会となりました。

■事業名 北海道未来社会システム創造事業

空き家整理の担い手に！生活困窮者の自立支援事業

■助成金事業

8 働きがいも
経済成長も



【目的】

旭川市には、コロナで失職した方もおり、生活困窮者支援相談窓口を訪れる人々が、昨年約800名以上いました。中でも対人関係を作る事が困難な方や、長期間の引きこもりやニートなど社会経験が不足し、就労に結び付かない人たちは、経済的にも困窮しています。一方旭川市には約2万1千戸の空き家があり、社会問題となっています。対人関係を築くのが困難で社会経験の不足がちな生活困窮者にこうした空き家整理などを通じて対価を得ることにより、就労意欲を喚起し社会的自立を促します。

【事業期間】

令和3年4月1日～令和4年3月31日

【内容】

空き家整理事業に登録する20代～60代までの生活困窮者が約30名おり、この方たちに空き家整理や、空家管理、草刈り、清掃、除雪などの作業を実施してもらいました。

相談受付数：延51件　うち依頼数40件

参加人数：21名　延作業日数 249人/日

【成果と課題】

かかわっている生活困窮者の中から5名が就労に結び付きました。また4名は求職活動を始めました。他の方も作業の回を重ねるごとに、指示がなくても自分から進んで動くようになり、意欲が見られる、生活が整いつつあるなどの変化が見られるようになりました。

■事業名

JR宗谷線車内販売事業(主催:旭川市・旭川物産協会)

■協力事業



【目的】 JR宗谷線周辺地域の活性化を目指し、地元の特産品の車内販売を通じて、障がい者などの雇用の場の多様化やJRの利用促進、魅力アップを図る。昨年に引き続き今年度もコロナ感染拡大のため中止。

■事業名

ひとり親家庭への食料宅配事業及び学習支援

■助成金事業



- (1) しんぐるまざあす・ふおーらむ助成金事業「だいじょうぶだよ！基金」第3次助成、
- (2) 令和3年度厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」

【目的】

コロナ禍で、就業時間短縮や雇い止めなどで収入が減り、困窮するひとり親家庭へ食料を支援するため、上記助成金を受けて「ひとり親家庭へのあったかサポート事業」として支援を行いました。

【事業期間】

- (1) 令和3年9月1日～令和4年2月28日
- (2) 令和4年3月1日～令和4年3月31日

【事業内容】

- (1) 実施時期：10月、12月、2月

支援家庭(延数)・人数(延数)：247世帯・約670人(親も含む)

実施方法：食材の無料支援と無料宅配、希望世帯へ通信型の学習支援を実施

(2) 実施時期：3月

支援家庭（延数）・人数（延数）：158世帯・約430人（親も含む）

実施方法：食材の無料支援と無料宅配

※合計 支援家庭（延数）・人数（延数）：405世帯・約1100人（親も含む）

【成果】

広く告知はしていないがほぼ助成金範囲内で、応募されたひとり親家庭に食べ物を届けることが出来、更にアンケートなどでは喜びや感謝の言葉多く頂けた。

またこのアンケート結果から、ひとり親家庭の困窮度が分かり、今後の支援活動のための指針を入手する事が出来たと思われます。

■事業名

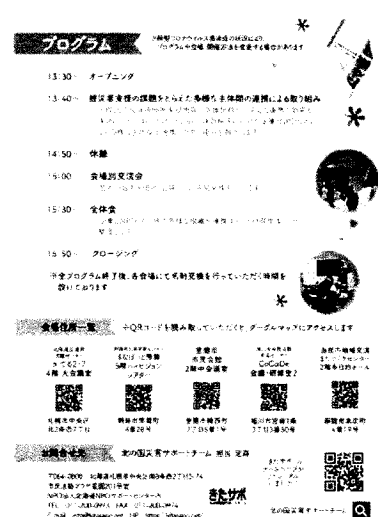
これからの災害支援を考える北海道フォーラム

■協力事業



【目的】

旭川NPOサポートセンターが幹事団体として参加している北の国災害サポートチーム（通称きたサポ）では、災害時に備え、多様な主体間の連携強化に向けた平時からのネットワーク構築支援や、企業・NPO等による支援力の強化を目的とした活動を行っています。その取り組みの一つとして、令和2年度より「これからの災害支援を考える北海道フォーラム」を開催しております。



【内容】

令和3年度は平成30年北海道胆振東部地震の支援記録から見えた被災者支援の効果や課題を基に、災害時の円滑な支援につながる「多様な主体との連携」をテーマとして3月2日（水）に開催いたしました。会場は札幌市の「かでの2・7」をメイン会場に、釧路／室蘭／旭川／函館の4会場をサテライト会場としてオンラインでつなぎました。直接オンラインで参加することも可能で、全体で120名もの参加者があり、旭川会場でも15名の方が参加されました。